

明珍会長による海上保安庁ソマリア周辺海域派遣捜査隊への感謝状贈呈について

当協会の明珍会長は 4 月 24 日、海上保安庁を訪れ、瀬口良夫海上保安庁長官に対し、2009 年以来絶え間なく実施されている海賊対処行動への感謝の意を伝え、昨年度任務を終えた第 48 次および先日帰国した第 49 次ソマリア周辺海域派遣捜査隊隊長へ感謝状を贈呈した。

当協会は国内で「海賊対処行動に対する感謝の集い」を開催するほか、ジブチ共和国への訪問団を結成し、現地で任務に従事する自衛隊および海上保安庁等の関係者に対し、謝意を直接伝えている。

明珍会長は 4 月初旬にジブチの自衛隊の拠点を訪問のうえ、隊員に感謝の意を直接伝えたが、可能な限り多くの隊員にも謝意を伝えたいとし、4 月 19 日、護衛艦「むらさめ」の帰国行事では艦長に感謝状を贈呈した。

今回はこれに続き、海上保安庁のソマリア周辺海域派遣捜査隊に対しても感謝状を直接贈呈したもので、19 日に帰国したばかりの第 49 次隊長松田智紘隊長、その前任の第 48 次隊長乾野直規隊長が出席した。会長は、現場の弛まない活動が日本商船隊をはじめとする多くの商船の保護に繋がっているとしてお礼の言葉を伝えた。

贈呈式後の懇談では両隊長から、長期間に渡る航海任務での部下のメンタルケアや、組織文化が異なる自衛隊の隊員との交流を深めることで、相互理解に繋がるなどと派遣中の様子が紹介された。

瀬口長官からは来訪に対する謝意が示され、商船側から直接感謝の意を伝えていただくことは隊員の士気向上に直接つながり、大変ありがたいこと、また、多くの職員がこの任務を希望しており、現在派遣中の第 50 次隊までに約 400 名の隊員が各管区から選抜されて任務に当たったとの紹介があった。

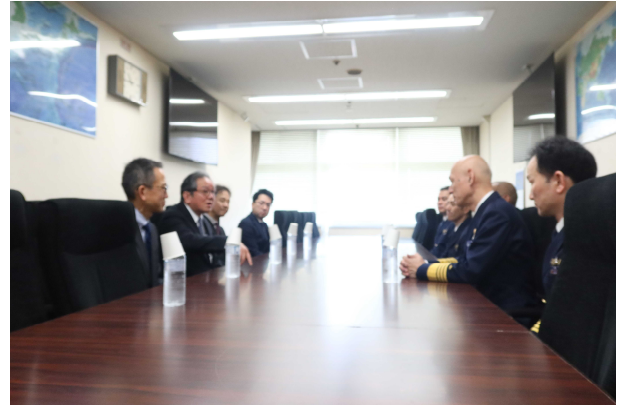
会長からは本日出席した隊長を含め全ての派遣隊員に感謝している旨を述べると共に、引き続き海上保安庁による海賊対処行動の継続を希望する旨を改めて伝えた。

(海務部 事務局)

贈呈式



第 48 次隊乾野隊長、明珍会長、第 49 次隊松田隊長



懇談の様子



前列左から 明珍会長、第 48 次隊乾野隊長、第 49 次隊松田隊長、瀬口長官
後列左から 野本国際刑事課長、篠原理事長、平尾常務、小山海賊対策室長